

国語

国語

入試分析

～入試ではこう出る!!～

問一 漢字・助詞・俳句の鑑賞 配点20点

- ・配点が減り、(イ)では、漢字の読みが選択問題に変更された。同じ漢字を使う熟語から選ぶ形式。
- ・(ウ)では、4年連続で助詞の出題となった。接続助詞の「と」と格助詞、副詞の一部と見分ける。過去3年間は、格助詞(順に「の」、「で」、「に」)が出題されていた。

問二 古文 配点16点

- ・難易度は普通かやや下がった。旅宿の主から商人が話を聞くという伝文体を取り、後半の段落では場面転換がある。主語が誰なのかを補いながら読む訓練が必要である。
- ・神奈川県公立入試では難しい単語に現代語訳がつく。しかし、古文の基本単語、指示語「さ」や「か」、助動詞「ず」や「まじ」と「ぬ」、敬語「おほす」や「たてまつる」などに関しては、入試を意識した学習を行い、現代語訳できる力をつける必要がある。

問三 小説文 配点24点

- ・マークシート式となり、記述問題がなくなった。平成27年度から2年連続で「朗読方法」と「文体」に関する問題が出題されている。
- ・(ア)の空欄補充問題と(オ)の朗読方法を選択する問題では、やや絞り込みに迷う。主観ではなく、文中にある言葉だけで客観的に解く練習を積み重ねよう。

問四 評論文 配点30点

- ・配点が2点増えた。記述問題の字数が3年連続減少しており、110字、65字、55字以内となった。キーワードでまとめる部分を見つけることも行いやすい。選択肢の問題も小説文と比較して悩むものはない。やや易化した。
- ・本文自体は経済と社会の関わりについて考察する内容で、抽象語が多い。こうした文章が苦手な生徒は、普段の学習から漢字の習得と知らない語句の意味調べを積み重ねることが重要である。

問五 作文 配点10点

- ・出題形式は、昨年度と変わらない。以下に示す手順で解けるが、やや易化した。
- ・選択問題は、空欄直前の本文に注目する。グラフのどの部分を読み取るか分かる。
- ・記述問題は、B、C、Dさんのセリフから「必要」「重要」「大切」という言葉に注目して書き抜く。書き抜いた各部分のつながりがおかしくならないように一文にまとめる。

入試に向けての学習のポイント・アドバイス

読解力と記述力を制する者は、受験を制す。全ての科目で問われる基本的な力をつけるためには、抽象的な語句の意味調べを地道に行い、理解することである。